

新卒・新人訪問看護師育成プログラム

【本プログラム実施における前提】

- ・本プログラムに基づいて新卒・新人教育をする事業所は、支援担当者を中心として、事業所全体で支援する環境を作る。
- ・「新卒・新人訪問看護師の取り組み」と「支援体制整備における事業所全体の取り組み」の両方を行うことを必須とする。
- ・3年目以降は、訪問看護師OJTガイドブック^{注1)}に基づいて学習支援を継続する。
- ※外部研修は、各事業所で必要な研修の情報を入手・確認し、申し込みをする。

【新卒・新人訪問看護師のプログラム開始時(入職時)オリエンテーション】

- 新卒・新人訪問看護師育成プログラム全体オリエンテーション(プログラム運営担当組織が企画・実施)
 - ①プログラムの内容および進め方、②安全管理について(医療安全対策:チームメンバーへの応援要請、医療廃棄物の取り扱い、感染対策、事故・災害対策)、③情報管理について(個人情報保護、訪問看護記録の取扱い)
- 勤務先オリエンテーション(勤務先では、以下のオリエンテーションを原則として行う)
 - ・理念、就業規則、運営規定、安全管理(医療廃棄・安全対策、感染対策、事故・災害対策)、看護倫理について

【新卒・新人訪問看護師育成プログラム参加事業所のプログラム開始時オリエンテーション】

- 管理者・支援者オリエンテーション(プログラム運営担当組織が企画・実施)

【1年目】到達目標:OJTのレベルI(新人)の内容が実践できる

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
新卒・新人訪問看護師(1年目)のプログラム	実務の進め方	【同行訪問】	目的を明確にした同行訪問の実施と訪問後の振り返り											
		【単独訪問】	★新卒訪問看護師:同行訪問を中心に行う。バイタルサインの測定、状態の観察、利用者に必要な基本的な生活援助(保清等)が実施できるようになった時期を目安に、OJTの結果を踏まえて、単独訪問を検討する。 ☆新人訪問看護師:同行訪問から開始する。看護師経験を加味し、バイタルサインの測定、状態の観察、利用者に必要な基本的な援助が実施できるようになった時期を目安に単独訪問を開始する。OJTの結果を踏まえて、担当利用者、担当数を決定する。 ※単独訪問開始時の利用者は、コミュニケーションが取れやすく、同居家族がおり、利用者と家族の関係が良好で、状態の安定している利用者(人工呼吸器等の管理が高度な医療機器を使用していない等)とする。											
		訪問対象の順序性(目安):	基本的な生活援助(保清等)、療養生活支援(状態観察、服薬確認等)を主とした療養者から、徐々に、介助を要する高齢者、認知症の療養者、がんの療養者、難病、小児等、対応がより複雑・高度な療養者に移行する。											
	勤務先研修	【OJT ^{注1)} の実施】	※入職時(1ヶ月以内)に初回の確認。勤務先支援者との評価の実施(OJTシートレベルI(必須)、在宅看護過程・在宅療養における家族看護のOJTシート(レベルI終了時まで)に実施)注1)、技術レベルの評価注2)も合わせて行う。 新卒・新人訪問看護師の状況に応じて、目標と方策、次の評価時期を設定。 OJT:OJTシートのレベルI(新人;一部、レベルIIの地域連携の内容(34・35)を「発言」を「参加」に置き換えて含める)および、看護技術についての到達目標シート①②の評価に基づく実践活動											
		【シミュレータ演習】	※新卒・新人訪問看護師の看護技術の到達目標および、担当または同行訪問する療養者に応じた演習の実施と、勤務先支援者による技術修得支援。 ラボ等を利用した演習の実施(食事・排泄・活動・清潔・衣生活援助、呼吸・循環を整える援助、与薬、創傷管理、救命救急、死亡時のケア等)											
		【勤務先勉強会】	※訪問看護の基本事項および、同行訪問または担当している訪問対象の状況に合わせた事前または訪問後の振り返り、ケースカンファレンスの実施等。 訪問対象者の状況に応じた勉強会の実施(生活支援、高齢者や小児の看護、認知症・がん・難病の療養者への看護等)											
	外部研修	【訪問看護基礎研修】	※宮城県内でやっている看護協会、訪問看護総合センターでの研修の他、協力病院、訪問看護ステーション連絡協議会、大学等の研修企画、県内外のその他の機関・組織等で企画している研修等を含む。 ★新卒訪問看護師必須研修:以下の研修に該当するものを、いずれかの機関で1年目に受講すること。 ☆新人訪問看護師推奨研修:各自の実務状況に応じて、以下の研修に該当するものを、いずれかの機関で1年目に受講すること。 《研修項目》「コミュニケーション」「接遇マナー」「看護倫理」「メンタルヘルスマネジメント」「訪問看護制度と報酬」「フィジカルアセスメント」「皮膚・排せつケア(褥瘡・ストーマケア含む)」「高齢者虐待等」「認知症の基礎」 ★☆選択研修:各自の実務状況、必要性や習熟状況に応じて受講する。 《研修内容》「小児在宅ケア」「リハビリテーション基礎知識」の他、訪問看護の実践で遭遇することの多い疾患の理解と看護に関する研修等											
		【訪問看護技術研修】	※根拠に基づく看護実践を目指し、訪問看護に関する知識・技術を習得する研修として、医療機関等の協力を得て、実施可能な方法による学習の機会の確保。 ★新卒訪問看護師推奨研修:以下の内容等、看護実践の基礎となる看護技術について、協力病院等において1年目に研修すること。 「感染防御」「与薬方法」「排泄援助(導尿等)」「人工呼吸器」等											
		【実務研修】	※実務に関わる研修内容を設定(研修先は、各事業所で個別に依頼するか、必要に応じて訪問看護総合センターに受け入れ先を相談)。実施時期は、シャドウイングは年度半ば以降を想定。協力病院との調整により、日程・日数を調整。 (例)協力病院の病棟等での日勤帯・夜勤帯の看護師のシャドウイングや勤務先以外の訪問看護ステーションでの未経験利用者の訪問、関係機関・職種の業務内容の理解を深めるための見学など											
	企画研修	【振り返り研修および新卒・新人交流】	※訪問看護師等を対象とした第三者(教育機関・訪問看護ステーション連絡協議会等)企画による看護活動の振り返りや相互交流の研修等への参加。参加は任意。実施時期は企画者に要確認。 企画の例)・新人看護師(新卒含む)、育成担当者研修会(宮城大学企画) ・新卒・新人看護師等交流会(訪問看護ステーション連絡協議会企画) ・新人看護師(新卒含む)研修会(宮城大学企画) ・新人看護師(新卒含む)、育成担当者研修会(宮城大学企画)											
プログラム実施事業所の支援体制整備	支援者研修	【支援者研修】	※支援者は、「◆」のついている、実習指導者講習会又は実習指導者講習会(特定分野)と、新人看護職員実地指導者研修を『プログラムでの支援を開始する前に受講していること』が基本(実施時期は看護協会に確認)。 ※上記の他、適宜、支援者(管理者や中間管理者含む)を対象とした新人の支援につながる研修(総合センター、看護協会、外部機関の研修を活用)の受講。 ◆新人看護職員実地指導者研修(看護協会) ◆新人看護職員教育担当者研修(看護協会)											
		【OJTガイドブック活用研修】	・年3回程度(5月頃から) ・対象:プログラムに関心のある事業所の訪問看護師											
		◆実習指導者講習会(看護協会) ◆実習指導者講習会(特定分野)(看護協会)	【プログラム周知】 ・プログラム概要と参											
相談対応	お新卒・新人訪問看護師への支援	【管理者・支援者合同会議】	参加者:プログラム参加事業所の管理者および支援者。実施内容:進捗状況および情報共有、支援体制の検討等 【支援者会議】参加者:プログラム参加事業所の支援者。実施内容:進捗状況報告および情報共有、意見交換等 管理者・支援者合同会議:年2回程度 ※1回目は、管理者・支援者オリエンテーション後に実施											
		【プログラム実施事業所への支援】	※OJTやプログラムの実施に関する相談への対応、OJT研修会(勉強会)企画等 随時:OJT実施、新卒・新人支援、プログラムに関する電話相談・訪問相談等対応(総合センター等)、適宜実施:OJTに関する相談対応(総合センター)											
		相談対応	訪問看護総合センター(新卒・新人訪問看護師および管理者・支援者等の電話相談等)											

注1)公益財団法人 日本訪問看護財団:訪問看護師OJTガイドブック 第3版(2015年)

注2)厚生労働省:新人看護職研修ガイドライン【改訂版】(2014年)

【2年目】到達目標:OJTのレベルⅠ(新人)～レベルⅡ(初級)の内容が実践できる

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
新卒・新人訪問看護師(2年目)のプログラム	実務の進め方	24時間対応に向けた準備(利用者把握)							他のスタッフと一緒に24時間対応			単独24時間緊急対応 単独訪問(対応力に応じた人数)			
	個別研修 勤務先研修	【単独訪問】 新卒: 数人～(OJTの結果を踏まえて、担当利用者、担当数を決定する。) 新人: 実務状況に応じた実施可能な人数(OJTの結果を踏まえて、担当利用者、担当数を決定する。)													
		訪問対象の順序性(目安): 基本的な生活援助(保清等)、療養生活支援(状態観察、服薬確認等)を主とした療養者から、徐々に、介助を要する高齢者、認知症の療養者、がんの療養者、難病、小児等、対応がより複雑・高度な療養者に移行する。													
		【OJT ^{注1)} の実施】 ※新卒・新人訪問看護師の状況に応じて、目標と方策、次回の評価時期を設定。在宅看護過程・在宅療養における家族看護のOJTシート(レベルⅠ終了時までに実施)注1)、技術レベルの評価注2)も合わせて行う。 OJT:OJTシートのレベルⅠ(新人)～レベルⅡ(初級)および、看護技術についての到達目標シート①②の評価に基づく実践活動													
	勉強会	【シミュレータ演習】 ※新卒・新人訪問看護師の看護技術の到達目標および、担当または同行訪問する療養者に応じた演習の実施と、勤務先支援者による技術修得支援。 ラボ等を利用した演習の実施(食事・排泄・活動・清潔・衣生活援助、呼吸・循環を整える援助、与薬、創傷管理、救命救急、死亡時のケア等)													
		【勤務先勉強会】 ※訪問看護の基本事項および、同行訪問または担当している訪問対象の状況に合わせた事前または訪問後の振り返り、新たな新卒・新人訪問看護師の訪問後の振り返りの共有、ケースカンファレンスの実施等。 訪問対象者の状況に応じた勉強会の実施(生活支援、高齢者や小児の看護、認知症・がん・難病の療養者への看護等)													
	外部研修 集合研修	【訪問看護基礎研修】 ※宮城県内で行っている看護協会、訪問看護総合センターでの研修の他、協力病院、訪問看護ステーション連絡協議会、大学等の研修企画、県内外のその他の機関・組織等で企画している研修等を含む。1年目に受講できなかったもの等。 ☆☆選択研修:各自の実務状況、必要性や習熟状況に応じて受講する。 《研修内容》「小児在宅ケア」「リハビリテーション基礎知識」の他、訪問看護の実践で遭遇することの多い疾患の理解と看護に関する研修等													
		実践研修	【訪問看護技術研修】 ※根拠に基づく看護実践を目指し、訪問看護に関わる知識・技術を習得する研修として、医療機関等の協力を得て、実施可能な方法による学習の機会の確保。 ●必要性および習熟状況に応じて参加する研修を決定												
			【実務研修】 ※勤務先以外のところで、実務に関わる研修内容を設定(訪問看護推進協議会:「訪問看護ステーション・医療機関の看護師の相互研修」への参加) 例) 病院(退院調整、外来)等 日本訪問看護財団「訪問看護e-ラーニング」 2年目または3年目に実施「訪問看護ステーション・医療機関の看護師の相互研修」参加(全5日間)												
	企画研修 第三者 振り返り	【振り返り研修および新卒・新人交流】 ※訪問看護師等を対象とした第三者(教育機関・訪問看護ステーション連絡協議会等)企画による看護活動の振り返りや相互交流の研修等への参加。参加は任意。実施時期は企画者に要確認。 企画の例) ・新人看護師(新卒含む)、育成担当者研修会(宮城大学企画) ・新卒・新人看護師等交流会(訪問看護ステーション連絡協議会企画) ・新人看護師(新卒含む)研修会(宮城大学企画) ・新人看護師(新卒含む)、育成担当者研修会(宮城大学企画)													
プログラム実施事業所の支援体制整備	支援者研修	【支援者研修】 ※支援者は、「◆」のついている、実習指導者講習会又は実習指導者講習会(特定分野)と、新人看護職員実地指導者研修を『プログラムでの支援を開始する前に受講していること』が基本(実施時期は看護協会に確認)。 ※上記の他、適宜、支援者(管理者や中間管理者含む)を対象とした新人の支援につながる研修(総合センター、看護協会、外部機関の研修を活用)の受講。 ◆新人看護職員実地指導者研修(看護協会) ◆新人看護職員教育担当者研修(看護協会) 【OJTガイドブック活用研修】 ・年3回程度(5月頃から) ・対象:プログラムに関心のある事業所の訪問看護師 ◆実習指導者講習会(看護協会) ◆実習指導者講習会(特定分野)(看護協会)													
	新卒および支援者への看護支援	【管理者・支援者合同会議】 参加者:プログラム参加事業所の管理者および支援者。実施内容:進捗状況報告および情報共有、支援体制の検討等 【支援者会議】 参加者:プログラム参加事業所の支援者。実施内容:進捗状況報告および情報共有、意見交換等 管理者・支援者合同会議:年2回程度 ※1回目は、管理者・支援者オリエンテーション後に実施 支援者会議:5月以降、適宜(年4回程度)													
		【プログラム実施事業所への支援】 ※OJTやプログラムの実施に関する相談への対応、OJT研修会(勉強会)企画等 随時:OJT実施、新卒・新人支援、プログラムに関する電話相談・訪問相談等対応(総合センター等)、適宜実施:OJTに関する相談対応(総合センター)													
相談対応	訪問看護総合センター(新卒・新人訪問看護師および管理者・支援者等の電話相談等)														

【プログラム周知】
・プログラム概要と参

注1)公益財団法人 日本訪問看護財団:訪問看護師OJTガイドブック 第3版(2015年)
注2)厚生労働省:新人看護職研修ガイドライン【改訂版】(2014年)